

2. 流域及び河川の自然環境

2-1 流域の自然環境

2-1-1 植生

流域の大部分は山地、丘陵地であり、低地は山地の谷底平野と最下流部に分布する。

流域の源流部に位置する天狗岳周辺では、エゾマツ-トドマツ群集やエゾマツ-ダケカンバ群落等の亜寒帯、亜高山帯自然植生が広がる。上流部から中流部の丘陵地ではミズナラ-カシワ-コナラ群落等が分布しているが、トドマツや落葉針葉樹の植林もみられる。河畔林は源流部から上流域ではエゾマツ、トドマツ等の針葉樹林、ミズナラ、エゾイタヤ等の混生した針広混交林が分布し、低地の平野部ではヤチダモ-ハルニレ群集が分布している。中流部から下流部の河岸にはヤナギ低木林が分布している。



写真 2-1 ヤチダモ-ハルニレ群集



写真 2-2 ミズナラ群落

出典：北海道開発局

2-1-2 哺乳類

湧別川流域に生息する哺乳類は、平成 15 年度の河川水辺の国勢調査によると、オオアシトガリネズミ、エゾヤチネズミ、エゾアカネズミ、キタキツネ、エゾシカ等の 8 科 15 種が報告されている。特にオオアシトガリネズミ、エゾヤチネズミが多く生息しており、河川敷の草地環境がトガリネズミ類、ネズミ類の生息環境となっている他、中流部の山付き区間ではエゾアカネズミ、エゾリス、エゾモモンガ、エゾシカ等の森林性の種が確認されている。

特定種は、カラフトアカネズミの 1 種が確認されている。



写真 2-3 カラフトアカネズミ



写真 2-4 キタキツネ

出典：北海道開発局

2-1-3 鳥類

湧別川流域に生息する鳥類は、平成 14 年度の河川水辺の国勢調査によると、94 種の鳥類が報告されている。

生息環境別では、海辺鳥類は、ウミウ、ウミアイサ、オオセグロカモメ、ウミネコ等が確認され、河口付近はカモ類、カモメ類の集団越冬地、休息地となっている。水辺鳥類は、アオサギ、マガモ、コガモ、ホオジロガモ、カワアイサ等であり、河岸の崖はショウドウツバメの集団営巣地となっている。草原性鳥類は、ヒバリ、ノビタキ、コヨシキリ、オオジュリン等であり、橋桁がイワツバメの集団営巣地となっている。森林性鳥類は、アカハラ、キビタキ、アカゲラ、センダイムシクイ、シジュウカラ等であり、中・上流域の山付き区間に多く生息している。

特定種は、オジロワシ、オオワシ、オオタカ、ハイタカ、ヒシクイ、クマゲラ、ミコアイサ、オシドリ、オオジシギ、コアカゲラの 10 種が確認されている。



写真 2-5 オジロワシ



写真 2-6 オシドリ

出典：北海道開発局

2-1-4 両生類・爬虫類

湧別川流域に生息する両生類・爬虫類は、平成15年度の河川水辺の国勢調査によると、両生類はエゾサンショウウオ、アマガエル、エゾアカガエルの3科3種、爬虫類はシマヘビの1科1種が報告されている。特にエゾアカガエルは全区間で卵塊、幼生が確認されており、止水域や水溜りが繁殖場所となっていると考えられる。また、ヘビ類の餌となるカエル類やネズミ類が多く生息しており、ヘビ類の採餌環境に適した河川環境となっていると考えられる。

特定種は、山付き斜面部の林床の止水域等でエゾサンショウウオが非常に多くの卵塊と共に確認されており、これらの箇所が安定した繁殖場所となっていると考えられる。



写真 2-7 エゾサンショウウオ



写真 2-8 エゾアカガエル

出典：北海道開発局

2-1-5 魚類

湧別川に生息する魚類は、平成16年度の河川水辺の国勢調査によると、ヤツメウナギ科、コイ科、ドジョウ科、サケ科、トゲウオ科、カジカ科、ハゼ科及びカレイ科の8科25種が報告されている。純淡水魚は、シベリアヤツメ、エゾウグイ、フクドジョウ、ニジマス、ヤマメ、エゾイワナ、オショロコマ、トミヨ、エゾトミヨ、ハナカジカ、ジュズカケハゼの11種が、回遊魚は、カワヤツメ、マルタ、ウグイ、サケ、カラフトマス、サクラマス、イトヨ日本海型、エゾハナカジカ、シマウキゴリ、ウキゴリ、トウヨシノボリ、ヌマチチブの12種で、汽水・海水魚はアシシロハゼ、ヌマガレイの2種が確認されている。

特定種は、シベリアヤツメ、マルタ、エゾウグイ、サクラマス（ヤマメ）、オショロコマ、イトヨ日本海型、エゾトミヨ、ハナカジカ、エゾハナカジカの9種が確認されている。



写真 2-9 シベリアヤツメ



写真 2-10 サクラマス(ヤマメ)

出典：北海道開発局

2-1-6 昆虫類等

湧別川流域に生息する昆虫類は、平成 17 年度の河川水辺の国勢調査によると、クモ類 3 目 13 科 72 種、昆虫類 11 目 153 科 643 種、合計 715 種が報告されている。高水敷が広く牧草地として利用されている下流部では、他地区と比較してトンボ目とハエ目が多く確認されている。ヤナギ等の河畔林やオオイタドリを中心とした草本群落、さらには山付き区間を含む中流域では、チョウ目、コウチュウ目が優先しており、ヒメシジミ、カバイロシジミ、エゾヒメシロチョウ、チャマダラセセリ等の草地に生息するチョウ類が確認されており、河川敷はこれらのチョウ類にとって重要な生息環境となっていると考えられる。また、高水敷を公園利用されている上流域ではカメムシ目が多く確認されている。

特定種は、ナツアカネ、チャマダラセセリ、キタシリアカニクバエ、ミズマムシの 4 種が確認されている。



写真 2-11 ナツアカネ



写真 2-12 チャマダラセセリ

出典：北海道開発局

重要な種および着目すべき種(湧別川)

区分	No.	種名	重要種指定区分				緑の国勢調査
			文化財保護法	種の保存法	環境省レッドデータブック	北海道レッドデータブック	
魚類	1	シベリアヤツメ			NT	R	
	2	ヤチウグイ			NT		
	3	マルタ				N	
	4	エゾウグイ				N	
	5	シラウオ				R	
	6	サクラマス				N	
	7	ヤマメ				N	
	8	イトヨ日本海型				N	選定
	9	トミヨ					選定
	10	エゾトミヨ			NT	R	選定
	11	ハナカジカ				N	
	12	エゾハナカジカ				N	
	13	ルリヨシノポリ				R	
底生動物	1	コシダカヒメモノアラガイ			DD		
	2	モノアラガイ			NT		
	3	ゴカイ					
	4	ウエノヒラタカゲロウ					
	5	フタスジモンカゲロウ					
	6	オオコオイムシ				R	
	7	カラフトゴマフトビケラ				R	
	8	ウルマーシマトビケラ					
	9	キボシツブゲンゴロウ			NT	R	
	10	ハセガワドロムシ				R	
植物	1	エゾノミズタデ				Vu	貴重
	2	ヤマタニタデ			VU		
	3	ノタイオウ			VU		
	4	エゾノミヤマハコベ			VU		
	5	キタミフクジュソウ			VU	Vu	
	6	バイカモ				R	
	7	チドリケマン			NT		
	8	ムラサキベンケイソウ			DD		
	9	カラフトイバラ				R	
	10	ホザキシモツケ			VU		
	11	カラフトモメンヅル			VU	R	
	12	サワゼリ			EN		
	13	ホソバツルリンドウ			EN		
	14	エゾキヌタソウ			VU		
	15	エゾムグラ			VU	R	
	16	ホロマンノコギリソウ			VU		
	17	イトモ			VU		
	18	クロユリ				R	
	19	シラオイエンレイソウ			CR		
	20	ヒメウキガヤ				R	
	21	ミクリ			NT	R	
	22	アカンカサスゲ				R	
	23	ウスイロスゲ			VU		
	24	イトヒキスゲ			EN		
	25	エゾハリスゲ			VU		
	26	ヒロハトンボソウ			EN		
鳥類	1	ハジロカイツブリ					
	2	アオサギ					
	3	ヒシクイ	天		VU	R	
	4	コハクチョウ				R	
	5	オシドリ				R	
	6	マガモ					
	7	ミコアイサ				Vu	
	8	オジロワシ	天	国内	EN	En	主要・稀少
	9	オオワシ	天	国内	VU	En	主要
	10	オオタカ		国内	VU	Vu	稀少
	11	ハイタカ			NT	Vu	
	12	ケアシノスリ				R	
	13	オオジシギ			NT	R	主要
	14	カワセミ					主要
	15	クマゲラ	天		VU	Vu	主要・稀少
	16	コアカゲラ				R	稀少
	17	イワツバメ					
	18	キセキレイ					
	19	アカモズ			NT	R	
	20	カワガラス					
	21	ウグイス					
	22	コヨシキリ					

重要な種および着目すべき種(湧別川)

区分	No.	種名	重要種指定区分				緑の国勢調査
			文化財保護法	種の保存法	環境省レッドデータブック	北海道レッドデータブック	
両生類	1	エゾサンショウウオ				N	主要
	2	アマガエル					
	3	エゾアカガエル					
爬虫類	1	シマヘビ					
哺乳類	1	エゾリス					主要
	2	エゾモモンガ					
	3	カラフトアカネズミ				N	
	4	キタキツネ					
	5	Martes属の一種			クロテン：DD		クロテン：主要
	6	イイズナ					
	7	ミンク					
陸上昆虫類	1	エゾアオイトトンボ					特定
	2	ナツアカネ				R	
	3	エゾアカネ				R	
	4	ヒメアカネ				R	
	5	ヒメリスアカネ				R	自然
	6	サッポロウナカ				R	
	7	クロスジコアオカスミカメ			DD	R	
	8	ナナホシクサカゲロウ				R	
	9	キタコエグリトビケラ				R	
	10	カラフトタカネキマダラセセリ					自然・特定
	11	チャマダラセセリ			CR+EN		特定
	12	カバイロシジミ					主要・特定
	13	シロオビヒメヒカゲ北海道東部亜種					自然・特定
	14	キタシリアカニクバエ				R	
	15	エゾアオゴミムシ				R	
	16	キタマルクビゴミムシ				R	
	17	ミズスマシ				R	

出典：河川水辺の国勢調査（H3～H17）

重要種指定区分
<p>【文化財保護法】 文化財保護法(昭和25年法律第214号) 天：天然記念物</p> <p>【種の保存法】 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成4年法律第75号) 国内：国内希少野生動植物種</p> <p>【環境省RDB】 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック— (環境省、魚類2003、底生動物2005、2006、植物・鳥類・両爬虫2002、昆虫2006) CR+EN：絶滅危惧I類 CR：絶滅危惧IIA類 EN：絶滅危惧IIB類 VU：絶滅危惧II類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足</p> <p>【北海道RDB】 北海道レッドデータブック(北海道、2001) Cr：絶滅危機種 En：絶滅危惧種 Vu：絶滅危急種 R：希少種 N：留意種</p>
<p>緑の国勢調査は参考資料とした</p> <p>【緑の国勢調査】 主要：主要野生動物 [第1回自然環境保全調査(環境庁、1976)] 自然：すぐれた自然の調査対象種 [第1回自然環境保全調査(環境庁、1976)] 貴重：貴重植物 [第1回自然環境保全調査(環境庁、1976)] 指標：指標昆虫 [第2回自然環境保全基礎調査(環境庁、1980)] 選定：調査対象種 [第2回自然環境保全基礎調査(環境庁、1980)] 稀少：稀少種 [第2回自然環境保全基礎調査(環境庁、1983)]</p>

2-2 河川及びその周辺の自然環境

1) 上流部（源流部～武利川合流点付近）

源流部から武利川合流点に至る上流部は、その源を北見山地の天狗岳（標高 1,561m）に発し、山間部の遠軽町白滝を流れ、丸瀬布地区まで渓谷を貫流する。河床勾配は 1/100 以上の急勾配であり、渓流河川の様相を呈している。周囲はエゾマツ、トドマツの針葉樹林、ミズナラ、エゾイタヤ等の混生する針広混交林が広く分布している。山間部を抜けた区間では、明瞭な瀬・淵や部分的に岩河床が露出している箇所もみられ、流れの多様な河川環境を形成し、ハナカジカやオショロコマ等が生息している。



写真 2-13 湧別川源流部

(写真出典：網走開発建設部 HP)

2) 中流部（武利川合流点付近～生田原川合流点付近）

武利川合流点から生田原川合流点に至る中流部は、河床勾配が約 1/250 程度であり、河道は蛇行を繰り返し中州や寄州が発達しているとともに、瀬・淵が明瞭な河川の様相を呈している。

河川は、サケ、カラフトマス等が遡上している他、シベリアヤツメ、エゾトミヨ等が生息している。また、マガモ、コガモ等のカモ類の休息場となっている。河川周辺の山付林には、ヤナギ林のほか、ヤチダモ、ハルニレ林が分布している。高水敷は湿性草本群落が分布しているほか、遠軽市街地では公園等が整備され、イベントやスポーツ等に利用されており、地域住民の憩いの場となっている。



写真 2-14 湧別川中流部（KP26.0 付近）

3) 下流部（生田原川合流点付近～河口）

生田原川合流点付近から河口に至る下流部は、河床勾配が約 1/300～1/500 程度であり、河口付近の一部が約 1/800 となっており、全川を通じて比較的急勾配である。

河道は蛇行を繰り返しながら畑地帯を流下しており、砂礫の中州等が見られ、エゾウグイやカラフトマス、ハナカジカ等が生息している。周囲は山付きと畑地が左右岸交互に見られ、オジロワシ、オオワシ、クマガラ等の鳥類のほか、河畔林内の水溜り等がエゾサンショウウオやエゾアカガエルの産卵場所となっている。

また、河口付近は比較的緩勾配で、河道は大きく蛇行し、ワンドや細流、瀬・淵等の多様な河川環境を形成している。この区間には感潮区間があり、マルタウグイやエゾハナカジカ等の感潮域に生息する魚類の生息地になっており、河口付近の緩やかな流れは、ヒシクイ、オシドリ等のガン・カモ類やカモメ類の越冬地及び渡りの中継地として利用されている。また、河口部左岸の砂丘地には、ハマニンニクやハマナスの砂丘植生が生育している。



写真 2-15 湧別川下流域 (KP16.0 付近)



写真 2-16 湧別川下流域 (KP 4.0 付近)

2-3 特徴的な河川景観や文化財等

2-3-1 景観・景勝地

流域の上流域では、湧別川溪谷等の溪流景観を始めとした自然景観に恵まれているとともに、支流の丸瀬布川は2kmの間に13もの滝が階段状に並んでいる「十三の滝」、武利川にはエゾシカの生息地としても知られる「鹿鳴の滝」、白滝村の湧別川本川には、「村名発祥の滝」など、随所に点在する滝が変化に富む景観を形成している。また、白滝温泉、瀬戸瀬温泉等ののどかな自然に包まれた温泉地が点在している。

中流域には、発電ダムである湧別川ダムの周囲には寒河江公園があり、水、樹々、そして動物や鳥たちと人々がふれあう静かな空間を作り出している。また、遠軽町内には北海道自然100選にも選ばれた、地上約78mにそびえる瞰望岩^{がんぼう}があり、この巨大なシンボルを中心に桜やつつじの咲く背後の丘陵をそのまま利用した大規模な太陽の丘えんがる公園があり、そこからは遠軽市街を流れる湧別川を望むこともできる。

下流域は、瀬と淵を形成し緩やかに流れ広い高水敷を利用したパークゴルフ場が点在する。



写真 2-17 鹿鳴の滝



写真 2-18 十三の滝

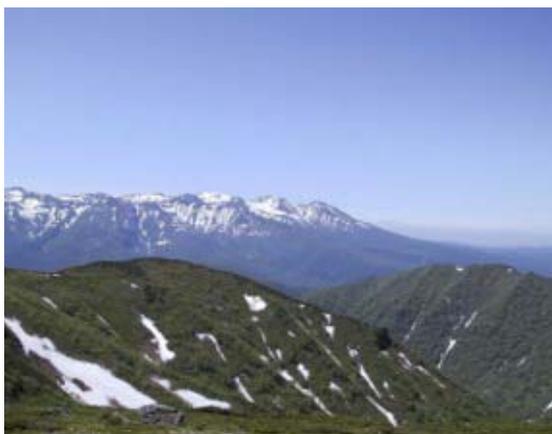


写真 2-19 ひらやま



写真 2-20 瞰望岩

(出典:遠軽町役場ホームページ)

表 2-1 主な観光対象(1)

項目	市町村名	名称	内容
自然	上湧別町	チューリップ公園	国道242号線沿いに広がるチューリップ公園には、町の花であるチューリップが120万本も咲いている。総面積7haの花畑にはオックスフォード、ショウウイナナーなど珍しい品種がある。
	上湧別町	五鹿山公園	五鹿山を取り巻く樹齢90年の桜や7000本のツツジが咲き誇る、自然環境に恵まれた五鹿山公園。春には福寿草やミズバショウ、夏にはキャンプ、秋は紅葉、冬はスキーと四季折々に楽しめる公園。キャンプ施設の充実度は高く、フリーテントサイトやオートキャンプ場のほか、ログキャビンも完備。アウトドアシーズンには道東観光のベースキャンプとして多くのキャンパーが訪れる。また、園内には150種もの貴重な高山植物を鑑賞できるロックガーデンや子供に人気の木製遊具、パークゴルフ場などもあり、家族揃って楽しめる公園。
	遠軽町	瞰望岩（がんぼういわ）	瞰望岩（がんぼういわ）は、アイヌ語で「インガルシ」見晴らしの良いところという意味。えんがるの町名はこの言葉に由来するほど、瞰望岩は町のシンボリックな存在。
	遠軽町	太陽の丘えんがる公園	太陽の丘えんがる公園は、ひとつの丘の頂から裾野までをそっくり生かし、色鮮やかな花々で埋め尽くされる広大な公園。夏から秋にかけては、黄花コスモスや混合コスモスなど1,000万本ものコスモス、春から初夏にかけては、淡い薄紅色の芝ざくらやつつじが咲き誇る。園内には、景勝地やレストハウス、ゴーカートなどの遊具施設のある「こどもの国」やキャンプ場もあり、町民をはじめ多くの皆さんの憩いの場として利用されている。
	遠軽町	せせらぎ広場	湧別川にかかる遠軽橋（国道242号線）のふもとに、湧別川に寄り添うように作られている公園。
	遠軽町	福路ひまわり園 SUN-BA（さんば）	1.2ヘクタールの土地に様々な種類のひまわりが植えられている。
	遠軽町	薬師山	瀬戸瀬方面にそびえる薬師山は、標高373m。登山道の全長は2,590mと、ハイキングなど、気軽に登山ができる。道中には、88カ所のお地蔵さまがある。
	遠軽町	寒河江公園	大正3年、寒河江地区で鉱泉が発見され、同8年から昭和20年頃まで瀬戸瀬鉱泉浴場として営業されていた。山が北にあり、南は貯水池に面して春秋の季節には来訪者、各種団体の観桜会、観楓会等に多く利用され、風光明媚な場所として知られている。
	遠軽町（丸瀬布）	大平高原	ぐるっと360°のパノラマが広がる高原で、日中の景観は勿論、お勧めは遮る物も、余計な明かりもない夏の星空。
	遠軽町（丸瀬布）	山彦の滝	丸瀬布市街から上武利方面に16kmのところであり、さらに駐車場から200mの山道を上ると、高さ28mから流れ落ちる滝が姿を現す。裏側に回っても見られることから別名「裏見の滝」とも呼ばれている。
	遠軽町（丸瀬布）	鹿鳴の滝	滑らかな岩肌をすべるように流れ落ちる滝で、周辺に鹿が多く生息し水を飲みに来ることから、この名前が付けられた。
	遠軽町（丸瀬布）	十三の滝	丸瀬布市街から上丸方面へ18km、途中から8kmの林道が続く。総距離2,258m、標高差272mの間に「一の滝」から「十三の滝」が、次々と姿を現す。「十三の滝」までは往復5時間ほどの行程。
	遠軽町（丸瀬布）	武利岳	網走管内最高峰1,876mの秀峰。かつてピンネシリ（男山）と呼ばれ8号目を過ぎるとゴツゴツした岩肌が現われ、起伏に富んだ尾根が山頂まで続き、小さく可憐な高山植物が一面に咲き乱れる。
	遠軽町（丸瀬布）	藤園	丸瀬布市街の高台に広がる花の名所。弘政寺から平和山公園にかけて、総延長1kmの藤棚に200株の藤が花をつける。花をつける6月初旬には、藤まつりが開催される。
	遠軽町（丸瀬布）	奇城岩	丸瀬布市街から上丸方面へ18km、十三の滝へ向かう林道を5.7kmほど入ったあたりで後ろを振り返ると大きな姿を現す。昭和29年、十三の滝踏査の際に、「奇城岩」と立木に墨書きされていたのが名前の由来。
	遠軽町（白滝）	黒曜石の露頭	湧別川流域の段丘に位置する白滝遺跡群は、今から2万年前の石器が生活の主な道具としていた時代の遺跡で、この白滝地域からはこれまでに100ヶ所以上から発見されている。東洋最大ともいわれる黒曜石の原産地であったため石器製作を行った大規模な遺跡が多く所在しているからであり、1つの遺跡からでも数十万点にも及ぶ遺物が出土する。
遠軽町（白滝）	村名発祥の滝	湧別川本川の国道333号線そばにある滝で、白く水しぶきを上げる姿から村名が「白滝」と命名されたとされる。	
温泉	上湧別町	かみゆうべつ温泉「チューリップの湯」	チューリップのまち上湧別町初の日帰り入浴温泉施設。施設内にはレストラン「アルクマール」、道の駅「かみゆうべつ温泉チューリップの湯」も併設。
	遠軽町	瀬戸瀬温泉	市街から車で20分、緑深い原生林に囲まれた山間の出湯。
	遠軽町（丸瀬布）	日帰り温泉 やまびこ	丸瀬布市街から上武利方面へ9km、森林公園いこいの森のすぐそばにある日帰り温泉施設。和風（木の湯）・洋風（山の湯）あわせて10種類の入浴が日替わりで楽しめる。
	遠軽町（白滝）	白滝温泉	湧別川河畔に湧き出したひそやかな温泉。周囲は樹木に覆われ静かで、宿の前は桜や白樺の美しい森。北大雪スキー場の基地でもある。
	遠軽町（白滝）	ひらやま	標高1,771mの山でピギナーの方でも気軽に登山でき途中雪渓や行雲の滝、令涼の滝、可憐な鉱山植物を楽しめる。運が良ければ水河期から生息するといわれる「ナキウサギ」貴重な蝶「オオイチモンジ」高山植物の女王「コマクサ」また頂上付近には「タカネシオカマ大群落」が見られる。

表 2-2 主な観光対象(2)

項目	市町村名	名称	内容
資料館	上湧別町	上湧別町文化センターTOM	中湧別地区の旧国鉄名寄線・湧網線の鉄道用地（旧駅舎跡）を再開発し、21世紀への文化の架け橋として、平成5年4月にオープン。多目的ホール、漫画美術館、パソコン室、AVコーナー完備の図書館。視聴覚室も配置。役場中湧別出張所、商工会事務局、中湧別バスターミナルを併設し、約400台の駐車場を完備。旧中湧別駅の跨線教やラッセル車をそのまま保存した鉄道資料館や百年を記念し造成した百年記念公園、百年記念塔もある。
	上湧別町	上湧別町ふるさと館JRY	上湧別町開基100年を記念し、平成8年8月にチューリップ公園の一角に建てられた郷土博物館。屯田兵の資料を多数展示。
	遠軽町	郷土館	市街地の中央にそびえたつ瞰望岩（がんぼういわ）の下に位置し、町民の憩いの場として親しまれ、エゾリス、シマリスなども訪れる公園内にある。郷土の歴史的資料や旧遠軽町友好姉妹都市（ブラジル・バスター市）の資料など、常設展示は約4,400点、その他1,300点を収蔵している。
	遠軽町	先史資料館	湧別川流域には、言葉や文字の文化がまだ生まれていなかった先史時代の人々の残した貴重な資料が大量に見つけられている。その資料を集めた質・量ともに日本一と言われる資料館。毎年多くの研究者や考古学を学ぶ学生が遠軽町を訪れる。
	遠軽町 (丸瀬布)	昆虫生態館	丸瀬布市街から上武利方面に9kmの森林公園いこいの森のそば。生きた昆虫たちをエアリアルごに付けた展示コーナーや蝶が飛び交う放蝶館、この地域の昆虫から世界の昆虫の生態展示や標本など。このほか、館内には工作体験コーナー・自然情報コーナー・学習コーナーなどもある。
施設	上湧別町	リバーサイドゴルフ場	きれいに整備された河川敷のゴルフ場。湧別川の河川敷を利用した18ホールのゴルフ場。
	上湧別町	上湧別ラジコン飛行場	湧別川沿岸に設置されたラジコン飛行機専用の飛行場。
	遠軽町 (生田原)	木のおもちゃワールド館 ちゃちゃワールド	世界約40カ国の木のおもちゃを集めたミュージアム。からくりおもちゃ・あやつりおもちゃ・くろみ割り人形など大小1万点もの木のおもちゃを展示・収蔵している。子供たちが木のおもちゃで遊べる「遊びの広場」や木のおもちゃ作りが体験できる木工房「ゼペット」、そして、影絵の巨匠・藤城清治氏の作品を展示した「コロボックル影絵美術館」も併設している。
	遠軽町 (生田原)	オホーツクいしぶみの森オ ホーツク文学館	オホーツク圏を舞台に描かれた文学作品・資料など、約450品を収集展示。JR生田原駅の待合室も兼ねる。
	遠軽町 (丸瀬布)	森林公園いこいの森	面積約4.5haの自然林の他、キャンプ場、テニスコート、ローラースケート場、バイキング、魚釣り、日本で唯一の森林鉄道蒸気機関車を有する森林公園
道の駅	上湧別町	かみゆうべつ温泉「チュー リップの湯」	説明は「温泉」の項と同じ。
	遠軽町 (丸瀬布)	道の駅まるせつぐ	国道333号線沿いにあるドライバーズステーション。平成6年に認定された道の駅で、食事や休憩はもちろん、地場産品の紹介や地域観光情報を発信している。
	遠軽町 (白滝)	道の駅しらたき	旭川紋別自動車道の白滝パーキングエリアにある。白滝地域の農産品や加工品などの販売のほか、軽食が味わえるレストランコーナーを完備。
体験学習	遠軽町	国産材需要開発センター 「木楽館」	地元の木工品などを展示する広場があり、研修室・工作室・塗装室・漆工室・磨き室・乾燥室・事務室などがある。またロビーなどの空間を利用した林業・木材の情報コーナー、遠軽町で産出した珪化木の展示コーナーがある。

表 2-3 主な観光対象(3)

項目	市町村名	開催月	名称	内容
イベント	湧別町 上湧別町	7月	オホーツクサイクリング	オホーツク海沿岸11か町村212km走破するサイクリング大会。金曜日はスタート地点である雄武町で受付を行い、ウェルカムパーティーが開かれ、土曜日に雄武町を出発。ゴールの斜里町を目指す。湧別町の休憩地点はファミリー愛ランドYOU。サイクリストたちは、ここで鋭気を養い、1日目のゴール常呂町に向けてスタートする。例年、1,300人ほどのサイクリストが参加。各地で住民の皆さんの声援を受け、212kmの走破を目指し、果敢に挑戦する。
	湧別町	7月	ゆうべつ大漁みなとまつり	湧別漁港で開催。前夜祭は、コンサートや歌謡ショー、夏の夜を彩る花火大会が行われる。本祭は大漁パレード、水上むかでレース、浜ゆで毛がにの販売、毛がに鉄砲汁の無料コーナー、オホーツク遊覧船、ホッカイシマエビのつかみ取りなど、様々なアトラクションが行われる。
	湧別町	9月	湧別町産業まつり	湧別町産業まつりは、本町の農産物や海産物の生産を祝うイベントで、市街地中心の町民憩いの広場で開催される。女性・小中学生対象の鮭・鱈の生け捕り大会、オホーツク人間ホタテ引き大会、鮭ほかの原価販売、農産物即売会、飲み物無料コーナーほか様々な催しが行われ、近隣の市町村から多くの方が訪れる。
	湧別町	期日未定	ふれあいゆうべつ元気まつり	自分の体力や健康状態を知り、健康づくりのきっかけにしておうと毎年開催。足の衰え健康測定や骨の健康度を測る骨密度測定、ボイスチェック、体力測定などちょっと気になる健康チェック項目が揃っている。
	上湧別町	5~6月	チューリップフェア	毎年およそ1ヵ月間、チューリップ公園を舞台に開催されるイベント。園内に咲き誇るチューリップは、「金太郎」や「桃太郎」、「かぐや姫」、「白雪姫」など童話の主人公の名前がついたものや、本場オランダから直輸入されたものなど珍しい品種を含めて120品種120万本ある。球根の販売やガーデニング用品の販売、記念イベントなどが開催される。
	上湧別町 遠軽町	2月	湧別原野100kmクロスカントリースキー大会	遠軽町、上湧別町の2町にまたがる白銀の湧別原野を舞台に繰り広げられるクロスカントリースキー大会。国内最長を誇る100kmの駅伝のほか、個人85kmコースや町村ごとに区間設定した5~25kmのコースを用意。
	上湧別町	5月	五鹿山公園まつり	多数のイベントや売店を設置。
	上湧別町	7月	商工会青年部サマーパーティー	上湧別町商工会青年部サマーパーティーは昭和47年度から続く歴史ある事業。特別大サービスの青年部サマーパーティーは町民に大変人気の高いイベント。料理やビール、抽選会とゲームなど。豪華景品も。
	上湧別町	8月	七夕まつり	七夕まつりは、孟宗竹や七夕あんどんを会場に設置し雰囲気のある七夕まつりとして、環境庁が選んだ「星空の街」に相応しいイベントとして定着している。様々なイベントや売店、歌謡ショーなど。
	上湧別町	9月	屯田ふるさとまつり	屯田兵が出現するセレモニーを皮切りに、メイン行事である「湧別 屯田大綱引大会」が町内を四中隊と五中隊にわけて実施されたほか、屯田太鼓やよきこい屯田踊りなどのアトラクション、地元で生産された農産物の販売など。また、屯田鍋やスイートコーンが無料で配られるなど家族で楽しめるイベント。
	遠軽町	7月	遠軽がんぼう夏まつり	市街地を練り踊る千人踊り、音楽パレードなど、賑やかな催し物や、味覚などの舞台が並ぶ。
	遠軽町	8月下旬	コスモス開花宣言花火大会	太陽の丘えんがる公園のコスモスの開花を宣言する花火大会。YOSAKOIソーランの踊りが披露された後、カウントダウンと共に花火が打ち上げられる予定。
	遠軽町	9月	太陽の丘コスモスフェスタ	約10haの広大な花畑に咲く約1,000万本のコスモスを観賞しながら、食べる、遊ぶなど楽しいイベント多数。
	湧別町 上湧別町 遠軽町	9月下旬	みずウオークオホーツク大会	湧別川沿いを歩き自然とふれ合うイベント。20、13、7キロメートルの3コース。参加者には「かみゆうべつ温泉チューリップの湯」の入浴券配布
	遠軽町 (生田原)	8月	木のおもちゃ王国	木のおもちゃ作り、王国交流会、キャンプ
	遠軽町 (生田原)	7月	ヤマベまつり	ヤマベ解禁日に合わせ、7月上旬にヤマベの棲む川生田原川河畔公園で、フィッシング大会や、ビアパーティーで、ヤマベ解禁を祝う。
	遠軽町 (丸瀬布)	6月	まるせつふ藤まつり	約200株の藤の花が咲き乱れる公園で、藤娘撮影会、野外コンサート等のイベント。
	遠軽町 (丸瀬布)	7月	山彦の滝まつり	山彦の滝に祀られている成田不動尊の例祭
	遠軽町 (丸瀬布)	7月	いこいの森フィッシング大会	自然豊かないこいの森を流れる湧別川水系武利川でのフィッシング大会。
	遠軽町 (丸瀬布)	8月	まるせつふ観光まつり	「SL・清流・森林」をテーマとした町民手作りのイベント。雨宮号ナイトラン、花火大会、トンカチ教室など

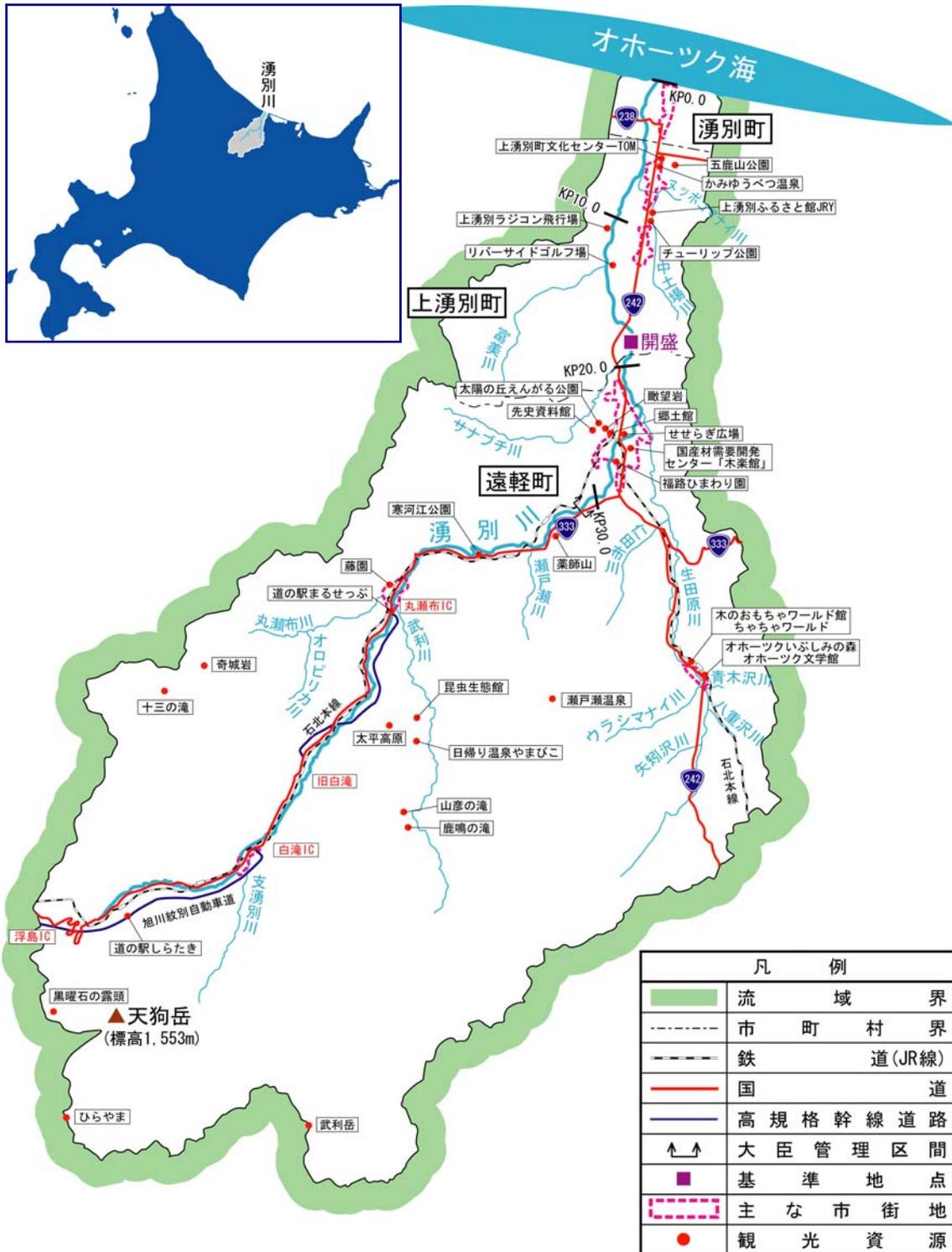


図 2-2 湧別川流域の主な観光施設位置図

2-3-2 文化財

湧別川流域には歴史的に重要な文化財、史跡は、表 2-4に示すとおり国指定で1件、道指定が4件(内2件は北海道遺産)、町指定が2件の文化財がある。

表 2-4 指定文化財

指定の種類	名称	所在地 指定年月日	概要
国	白滝遺跡群	遠軽町上白滝 平成元年1月9日	旧石器時代の集落跡であるこの遺跡は黒曜石原産地に立地し、多量に出土する石器は当時の生活と石器製作の実態を解明する上で重要。特に湧別技法による細石刃製作は沿海州等、大陸文化の関連において極めて学術的価値が高い。
道	白滝の流紋岩球類	遠軽町白滝国有林内 昭和39年10月3日	曹長石を主とした流紋岩が球類状をなして続いている。
	幌加川遺跡出土の石器群	遠軽町西町1丁目 平成3年3月30日	湧別川支流の幌加湧別川流域で収集されたものであるが、北海道の旧石器時代を解明する上で学術的に貴重な考古資料である。(札幌型糸田石刃核等1902点)
町	幌加内遺跡出土の 先土器時代石器群 (1903点)	遠軽町 昭和61年3月1日 (遠軽町先史資料館)	本町在住の郷土史研究家故遠藤栄治氏によって白滝村幌加内川遺跡から収集されたもので、学問的に質・量すべてに貴重であり、北海道における史実の解明に大きな足跡を残したきわめて貴重な資料である。
	幌加沢遺跡遠間地点	遠軽町 昭和50年10月30日	年代的にはBP14,000年～12,000年にわたって存続したと考えられる細石刃文化時代の石刃、搔器、石槍、彫器、細石刃核、スキー状スポール、舟底形石器の包蔵されていることが確認されている。
北海道遺産	森林鉄道蒸気機関車 『雨宮21号』	遠軽町丸瀬布 平成16年10月22日	「雨宮21号」は東京・雨宮製作所で製造された初の国産11トン機関車。昭和3年、丸瀬布一武利意森林鉄道に配置され、国有林から伐り出した丸太や生活物資の搬送に携わってきたが昭和36年に廃止。地元の強い要望で昭和51年、北見営林局から町に譲渡され、町は「森林公園いこいの森」を建設、機関車を走らせた。動態保存は道内では唯一のもの。
	屯田兵村と兵屋	北海道各地(上湧別町) 平成16年10月22日	屯田兵は明治8年の札幌郡琴似村に始まり、開拓と軍備のため、明治32年の士別、剣淵まで道内各地に37の兵村が置かれた。上湧別町には当時の区画の北兵村地区と南兵村地区が残る。

2-4 自然公園等の指定状況

湧別川流域は自然環境に恵まれた地域が数多く存在しており、これらの保護・保全管理が図られている。湧別川水系における自然公園等の法令指定状況は以下のとおりである。

2-4-1 鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律(平成14年度法律第88号)に基づく鳥獣保護区

7ヶ所で鳥獣保護区の指定がなされている。また、猟銃禁止区域は1ヶ所で指定されている。

表 2-5 各種保護地域指定一覧

鳥獣保護区等区域

整理番号	市町村	鳥獣保護区名	区域	存続期間	備考
177	遠軽町	ひらやま	紋別郡遠軽町に所在する国有林網走西部森林管理署2036林班の区域	平成15年3月31日～平成24年9月30日	森林鳥獣生息地790ha
178	遠軽町	武利	紋別郡遠軽町に所在する国有林網走西部森林管理署88林班及び89林班の区域	平成15年10月1日～平成25年9月30日	森林鳥獣生息地389ha
179	遠軽町	上丸鳥	紋別郡遠軽町に所在する国有林網走西部森林管理署事業区255林班から257林班までの区域	平成13年10月1日～平成23年9月30日	森林鳥獣生息地625ha
180	遠軽町	遠軽	紋別郡遠軽町留岡に所在する北海道家庭学校用地(民有林72林班を除く。)の区域 [特保]遠軽町留岡に所在する民有林74林班のうち、6から9まで、11、12、21、24、25、27、35、39、40、41、45から48まで、50、52小班の区域	平成11年10月1日～平成21年9月30日	森林鳥獣生息地368ha [特保66ha]
181	遠軽町	瀬戸瀬	紋別郡遠軽町に所在する国有林網走西部森林管理署113林班及び114林班の区域	平成15年10月1日～平成25年9月30日	森林鳥獣生息地340ha
182	遠軽町	野上	紋別郡遠軽町に所在する網走西部森林管理署事業区2林班は、二小班及び3林班と、二小班の区域	平成12年10月1日～平成22年9月30日	森林鳥獣生息地63ha
209	上湧別町	五鹿山	紋別郡上湧別町字北兵村二区107番の1・2、108番の1、318番の1・3、319番の1・2および4から9の区域に所在する五鹿山公園の区域	平成9年10月1日～平成19年9月30日	身近な鳥獣生息地27ha

整理番号	市町村	銃猟禁止区域	区域	存続期間	備考
46	湧別町	川西古川	紋別郡湧別町字川西に所在する湧別川左岸と町道西1号の交点から見通し線で北東に進みオホーツク海汀線との交点を起点とし、この点から南西に見通し線で進み湧別川左岸(河川敷除く。)と町道西1号(道路敷除く。)との交点にいたり、この点から同町道を北西に進み町道西四線との交点に至り、この点から同町道を北東に進み同町道の東端に至り、この点から見通し線で北東に進みオホーツク海汀線との交点に至り、この点から同汀線を南東に進み起点に至る区域内のうち、旧湧別川の水面の区域	平成14年10月1日～平成24年9月30日	14ha

※ 平成17年度鳥獣保護区等位置図(別冊編)より

2-4-2 道指定天然記念物

遠軽町白滝の流紋岩球顆が昭和39年10月3日指定されている。

湧別川の上流に約100mにわたり、流紋岩質黒曜岩中に晶出した球顆が集積に露出している。



图 2-3 鳥獸保護区・狩獵禁止区域

2-5 市民活動

湧別川流域では、流域関係町で構成される湧別川流域懇談会が設置され、今後の川のあるべき姿や、川づくりのあり方、治水効果の早期向上や河川整備について、市民等一体となって取り組んでいる。

また、湧別川の環境を守るため、河川管理者と一緒に地域住民の方々のボランティアによる清掃活動を実施している。



写真 2-21 湧別川流域懇談会の様子



写真 2-22 カヌー清掃

出典：オホーツク圏の総合情報サイト

湧別川流域懇談会からの提言

- 提言1** 湧別川において洪水に対する安全が確保されていない箇所では、改修工事を行い、安全性の向上を図る。なお、改修工事の実施に際しては、河川の自然環境及び利用実態に十分配慮する。また、流域対策として森林の保全及び流出制御をはじめとする総合的な治水対策が必要。
- 提言2** 鳥類・魚類等の生息環境として重要である河畔林は、極力保全・創造につとめること。また、洪水時の流木については検討が必要。
- 提言3** 湧別川の貴重存水の環境を保全・回復するため、汚濁発生源対策等を推進すると共に、水量・水質について、地域と一体となって取り組むことが必要。
- 提言4** 人の関心を湧別川に向け、ゴミ投棄問題や河川利用者のマナー向上を図ることが必要。そのため、川に関する啓発活動の充実や「川の道徳」等、地域と連携した施策が必要。

● 河川改修工事の際には、湧別川の環境を保持するためのワンドの設置や、魚の生息に必要な水深の確保を図るべき。また、護岸を行う場合は、自然石を使ったリ、覆土を行う。

● 山の保水力を保持すべし。行政からのバックアップなども必要。

● 治水対策が必要な場所は、改修工事が必要である。

● 河畔林を保全してほしい。

● 魚の生息に好ましい場所であり、柳の根などには、ワカサギが卵を産みつけている。

● 竹・マス捕獲場付近などの河畔林は、自然環境が良好で、珍しい植物やカワセミなどが確認されている。

● 洪水時に、河口や海に流れてきた流木で被害を付けており、対策が必要。

● 川のごみ投棄は、1人1人の問題だが、何らかの対策で、取り組まなければ解決しない。

● マナーの悪い釣り人もいる。

● 人が水に親しめる場所をふやしてほしい。

● 釣リやカヌーなどを通して、川に関心を向けようための取り組みを。

● 市民が参加できる川の維持・管理を考えるべき。

● 釣りやカヌーなどを通して、川に関心を向けようための取り組みを。

● 河川との関わりの中で、学校教員等を行う取り組みをしてほしい。(ボランティア活動、川の祭典など)

● 流域の総合的な治水が必要。

● 地域の生活・産業に湧別川の水は欠かせない。

● 湧別川は、竹・マスの母なる川であり、道産でも魚種が豊富で川である。

● 川が汚れば、海の水も汚れてしまう。

● 良い水、良い川の保全のためには住民の意識の向上が必要。

● これからの河川の水質改善には、下水の高層処理等を考えるべき。

● 大きな川だけでなく、支川でも水質対策を考えたいく必要がある。

● 家畜糞尿対策は、酪農地域の河川では共通の問題。

図 2-4 湧別川流域懇談会からの提言 (2001. 2. 26)

出典：北海道開発局 網走開発建設部